

## 平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果について

この度、平成27年度業務実績に関する評価結果の通知を受けましたので、公表いたします。

評価結果は、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」として「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいる」となっています。

本学は、教育の充実、研究の発展、社会貢献の展開のため更なる努力を続けて参りますので、今後とも皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成28年11月17日

国立大学法人宇都宮大学長 石 田 朋 靖

(参考)

○文部科学省ホームページ

- ・平成27年度に係る業務実績の評価結果

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/kokuritu/houkoku/1379522.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/kokuritu/houkoku/1379522.htm)

- ・国立大学法人・大学共同利用機関法人の改革推進状況（平成27年度）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/kokuritu/houkoku/1379520.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/kokuritu/houkoku/1379520.htm)

## 平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人宇都宮大学

### 1 全体評価

宇都宮大学は、広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践し、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献することを基本的な目標としている。第2期中期目標期間においては、学士課程のみならず大学院課程における教育の質の維持・向上と保証に努め、幅広く深い教養と実践的な専門性を身につけた未来を切り開く高度な専門職業人を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、「とちぎ学」等の地域志向科目の整備、実務家教員による講義やネットワーク配信合同講義等により、専門知識を身につけたイノベーションを創出する人材等を養成するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### 大学の機能強化に向けた取組の状況について

平成28年度に設置する「地域デザイン科学部」と併せて、地域と連携した教育と研究を支援し、地域の課題解決に貢献することを目的とする「地域デザイン科学部附属地域デザインセンター」を設置することとしているほか、今後の大学院改革に向けて、平成28年度中に教員組織の一元化を図るための検討を開始している。また、女性教員の上位職種への積極登用の推進等を図る「女性教員を増加させるためのアクションプラン（第二次）」を策定している。

## 2 項目別評価

### <評価結果の概況>

	特筆	順調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

#### ○ 男女共同参画の推進による女性教員比率の増加

女性教員の上位職種への積極登用等を推進する「女性教員を増加させるためのアクションプラン（第二次）」を策定するとともに、「女性教員採用特別制度」を設けて学長裁量経費による女性限定の新規採用枠を設けるなどの取組を行った結果、女性教員比率は17.1%（対前年度比1.3ポイント増）となっている。

#### ○ 「学長補佐チーム」による学内連携の強化

学長のリーダーシップにより学内連携を更に推進するため、各学部の教員各1名で構成される学長補佐チーム（5名）を設置しており、学長補佐チームがリード役を努めることによって各学部等の状況・課題に応じた個性的で高い目標を掲げた「戦略的年度計画」の立案につながっている。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 組織的かつ体系的な内部質保証システムの構築

3階層（教育プログラム単位、学部単位、大学全体）の自己点検・評価、中期計画等の達成に戦略的・意欲的に取り組むための重点項目の設定、第三者の視点を取り入れた客観的評価に応じたインセンティブ経費の配分等、組織的かつ体系的なPDCAサイクルの実施によって大学の改善・改革を推進する新しい内部質保証システムを構築している。

## (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③情報セキュリティ、④法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

---

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 地域産業の発展に寄与する人材の育成

栃木を理解し、栃木の産業の発展に貢献できる人材、グローバル化に対応できる人材、農学・工学又は分野横断的な専門知識を身につけたイノベーションを創出する人材を養成するため、「とちぎ学」等の地域志向科目・実務家教員による講義・ネットワーク配信合同講義・キャリア教育の更なる充実を図っている。

### ○ 大学発新産業の創出と成果

イチゴを非接触で収穫する技術や高品質を保持しつつ流通可能な容器の開発を行うとともに、イチゴをはじめとする農産物の包装容器、流通技術の開発等を目的とした宇都宮大学発ベンチャー企業が設立され、大学と共同で開発した輸送技術による栃木県産イチゴが国際味覚審査機構（ベルギー）において優秀味覚賞を受賞している。